

# ものづくりの魅力を伝える努力必要

日本建設情報総合センター(J-CIC)顧問の佐藤直良氏(元国土交通事務次官)が建設関係分野のトップを訪問し、建設産業のさまざまな課題について語り合う対談シリーズ企画「建設再興人・未来・創造」。今回は特別編として、資格取得支援学校の総合資格学院を運営する総合資格の岸隆司社長を訪ね、教育現場から建設業の未来について意見を交わしました。



(きし・たかし) 1973年関西大(法)卒。80年名古屋市中務資格協会、87年東京都に総合資格協会(現・総合資格)を設立。鳥取県出身、64歳。

総合資格社長

元国土交通事務次官

## 佐藤 直良氏 × 岸 隆司氏



(さとう・なおよし) 1977年東京工科大学院修了、建設省(現国土交通省)入り。河川局長、技監、事務次官などを歴任。神奈川県出身、62歳。

■ 対談 ■

岸 パブル経済が崩壊してから、建設需要がどんどん減ってきました。それに合わせて、若者の建設業離れが加速しています。昔の建設現場は外部からでも見るのが高かったが、現在は工場生産の比率が高まったほか、仮囲いで外からは見えなくなっています。ものづくりの素直さまで見えないようになってしまったのが、建設業離れの原因の一つにあると思います。

佐藤 全く同感です。昔は、身近な古い建物が近代的なビルになっていく様子が見えました。ものづくりの現場が身近にあったのです。建設現場で働いている方も「職人さん」「大工さん」などと、尊敬のまなざしを持って呼んでいました。それが、安全対策上、仮囲いで閉ってしまったために、中で何をやっているのかわからない。いつの間にか、大きなビルが建ってしまった。その間、人がどれだけ苦労し、汗を流しているのかわからなくなりました。

岸 パブル景気でわいていたころは、建設業も広告やテレビ・コマーシャルなどで建設業の魅力を一生懸命に宣伝して、業界のPRがなっていました。魅力をうまく伝えることができなかったのが、若者離れの理由の一つともいえます。

佐藤 若い人のマインドに訴える努力が足りなかったと思います。ものづくりの現場で働いている父親の跡を継ぐ若者も少なくなっています。

岸 大学の建築学科に入っても、みんな設計をやっていたら、建築現場には行きたがりません。企業に入れば現場中心なのですが。

佐藤 埼玉県にもものづくり大学があります。ものづくりが大事だという姿勢を形にした大学です。地方創生の流れの中で、地方においても、こうした教育機関が大切で、日本全国で、東京と同じ町をつくる必要はありません。地域の風土、気候、文化などを色濃く反映した社会資本、住宅などを生み出す技術者や職人さんを育成するよう教育システムを作るべきです。

岸 昔は企業(設計事務所)も余裕がありました。最近の企業は即戦力を求めています。建築士資格の試験も難しくなっていますので、当社は資格取得支援を通じて、大学と企業をつなげる役割を担っていると自負しています。

佐藤 建築士の試験も、司法試験並みに難しくなっています。

岸 昔の試験と比べると、今は良くなったともいえますが、現在は、常に最新の情報やトレンドを取り入れなければなりません。実際の建築の工程も複雑になっています。

佐藤 建築の世界は医師の世界にたとえることができます。最近の総合病院には総合科というのがあります。医師があまりにも細分化してきているので、患者が何科で診療を受けたいのか分からなくなりました。そこで、まず総合科に行くと、受診する科を判断するのです。建築の現場も同じです。品質の良いものを買おうとすると、一生懸命に働き、良い品質のものをつくって儲からない、少ない給料しかもらえないようでは、仕事に誇りを持てません。

岸 発注者がきちんと積算をしているのだから、その範囲の中でいい提案をすればいいです。

佐藤 良い仕事をし、利益を上げていただく、働いてもらうにも還元すれば、マインドも良くなり、若者の魅力を引きつけることができます。いずれは税金になって返ってきます。民間が儲かることで税金が返え、財政が潤うという「良い循環」につながります。

岸 適正利益が大事ですね。大変な思いをして建築士の資格をとっても、それほど収入の高い職業ではありませぬ。

佐藤 いずれ変わってほしいと思います。現在の価格形成のあり方を見ますと、お金を持っている側、すなわち注

算が縮小すると、3K(苦しい、汚い、くろい)職場で、長時間労働と、若い人が入らなくなっています。

佐藤 業界の傾向として、職人さんとして働いても最後は経営者にならないと、収入が増えないともいわれています。

岸 公共工事では、最近設計労務単価が何度か引き上げられています。民間建築とちがって、50年以上は使われるので、その分の価格を加味する必要もあります。

佐藤 土木工事だと、発注者の多くは国とこのことになり。民間建築とちがって、50年以上は使われるので、その分の価格を加味する必要もあります。

## 資格者使って適正価格で勝負を「良い循環」実現へ処遇改善

佐藤 公共の建物にも同じことがいえませんが、減価償却の概念を入れるべきです。耐用年数がどれくらい、人件費や修繕費用にいくらかかるとか、トータルでかかる費用を出すべきです。

岸 建てるのは簡単ですが、その後の維持・管理が大変なケースが多いです。

佐藤 あと、どれくらいの年数なのか。どれくらいの費用をかけるのか。何年くらい長持ちするのかわかりたいのが現状です。

岸 人は毎日の暮らしの中で、建築物、インフラ施設とも、何か関わっています。毎日使うのだから、より快適な空間にした方が、長い目で見てコストは安くなります。そういったことに興味を持ってもらうことが大事です。若い人たちに建築の魅力、ものづくりの楽しさを体験してもらえようという教育が必要ですね。

佐藤 子供の頃から職業の体験学習できる施設があります。ものづくりを体験できる施設が、町の中にももっとたくさんあるといいと思います。企業や団体ももっとPRすべきですね。



文側が価格の決定権を持ちすぎしています。受注側が今以上に価格決定権をもたないと、民間工事では法文書ばかりが利益を上げ、受注側が利益を上げる構造にはなりません。

岸 せめて、50対50の対等だと良いですね。

佐藤 そうです。まさに「三方よし」の世界です。売り手、買い手、世の中良しの世界です。そうなる、仕事のやり方を変えなければなりません。たとえば、受注側会社の提示価格は積算に関する資格(個人の国家資格が望ましい)を持つ人のサイン(当然、受注側の適正利益も加味した形で)を必要とするシステムが考えられます。そうすると、注文側と受注側が価格設定の上で、より対等に近づくと思われます。さらに、いざ資格を持った人がサインした価格が妥当という時代にはなりません。

岸 土木工事だと、発注者の多くは国とこのことになり。民間建築とちがって、50年以上は使われるので、その分の価格を加味する必要もあります。

「つくる!安全現場の1年」シリーズの「アニメーション」+「実写映像」=見える化教材

# 現場に出る前に知っておきたい 建築基礎講座

DVD6枚組

### ここさえ押さえれば大丈夫! 建築初心者の必須ポイント

- 建築設計とは?
- 設計図面の読み方
- 製図の基礎知識
- 構造の基礎知識
- 建築物の各部名称
- 建築施工の流れ

### 建築基礎講座を視聴して

ビル建築がどういうものか初めて知った

現場へ出るのはとても不安でした。ビル建築の現場では、何をやっているのか、どのような場所なのか...学校では詳しく学ぶ機会が少なかったため、必要な知識を学ぶことが出来てよかったです。新卒の私が見ても易しい内容になっていたため、建設業界により一層興味がわいてきました。

お客様と自信を持って話せるようになった

営業スキルには自信がりましたが、建築に踏み込んだ話になると少し自信がなく、出来るだけ避けてきました。今は自分から積極的にお客様とやりとりが出来るようになり、今まで以上に信頼を得ることが出来るようになってきました。

建設会社 人事部

「つくる!安全現場の1年」シリーズ

リアルな3DCGで事故・災害事例を数多く収録。建設現場の安全衛生教育DVDの決定版!

- 1.年間行事編(全60分) ¥25,000(税別)
- 2.送り出し教育編(基本編30分+事例集30分) ¥40,000(税別)
- 3.リスクアセスメントKY編(全60分) ¥35,000(税別)

**日刊建設工業新聞社**

電話.03-3433-7154 FAX.03-3431-6301

〒105-0021 東京都港区東新橋2丁目2番10号

web 日刊建設工業新聞社 検索